

才今 王政復古更始一新 中盛業
遠土僻境之奧羽諸藩為臣一者其
不及海隅虫豸昧之賤民至者上而
沛布告之趣を奉命非實上古
列聖之

沛盛德之波為駟海外萬國と云時對之

沛大業也石白之成就之成海内富強也

鼓腹之太平一を歌也我之是也

九重感泣作泣石在者ハ云云尚又 亦

鎖撫之 皇後為謀亦沛東下上ハ

上殿慮之沛深意親しく如奉接

五音奉歡欣企望の意何と云入ん

九條殿下等仙臺と云著陣之旨余律

追討先鋒也殿急に被作也 沛仁恒之

沛極之聊之石身何列之藩信承懐然若

萬民不知取措手之 駭據物免

可申上振 年法在固

救命至志殿一刻之猶豫之在也

姫先鋒 應援之兵も陸上後援も大衆



救命至志殿一刻の猶豫可有於此意

姫先鋒之應援之兵之陸續集結大衆

數萬及此既仙臺先鋒之會軍也

及接戰之容保儀之奉觸

天怒の般深く恐入城外之謹慎を悔悟

降伏寛典に 殿下之 歎願書

をのち 修又督責は侍將を討地を以て割

伏光部軍 謀主の首級を以て右席

を以て謝罪を方重役之者 仙臺先鋒

之兩藩に其誠演進致す 國情を細

探し候はり交御 此意を以て御意

書信傳取申將 添紙を 九條

殿下奉 款を 奥田利藩陪席

連名に 歎願書を 奉儀

石の空谷天地罪人 難を及 津河津

早に 討入の美奏成功告に 作出一同

驚歎失望候之年 兵部 暴臣

に

朔下 炮候存 朔敵 之名を以て下 降其

修の 謝罪を 奉 王改復す

聖運 遭遇仕候 望外に 寛典 奉儀

官位如故 即時 奉儀

沛成吳德... 是而... 條...

洋... 解... 抑... 王政

復古更始一新... 抑... 萬民...

感... 其... 萬民... 鎮...

之... 鎮... 之...

沛仁恤... 貫徹... 實...

沛大業... 妨害... 成...

沛... 必然... 抑...

太... 官... 沛... 抑... 誅...

除... 大典... 沛... 抑...

沛一洗... 沛... 抑...

沛奮... 沛... 抑...

沛... 沛... 抑...

奧... 沛... 抑...

上下... 沛... 抑...

沛... 抑...

皇國

天朝... 沛... 抑...

沛... 抑... 大義... 沛...

沛... 抑... 沛... 抑...

鎮... 沛... 抑... 沛... 抑...

沛... 抑... 沛... 抑...

盛岡中將内

野村真澄

雅言
万

秋田中將内

戸村十太夫

義放
万

弘前少将内

山中兵部

泰清
万

丹羽左京右史内

丹羽一學子

富教
万

松平大學内

岡田三左内

亘忠
万

戸沼中務太福内

舟生源右衛門

成定
万

南郷遠江守内

吉岡左膳

政喜
万

阿部美作守内

梅村角兵衛

次立
万

阿部美作守内

梅村角兵衛

次立

相馬因幡守内

相馬靱負

秋田万三郎内

尙就

秋田帶刀

水野真次守内

忠恒

水野三郎右衛門

安差理三郎内

元宣

三田八彌

松前志摩守内

宜隆

下國彈正

板倉甲斐守内

季定

池田権左衛門

六郷兵庫守内

邦知

六郷大與子

本多能登守内

政景

石井玄右衛門

本多能登守内

政景 丑

石井 玄右衛門

岩城 左京大夫内

美實 廐

大平 伊織

内卷 長壽庵内

觀成 成

池田 彦助

立花 虫雲守内

通理 成

屋山 外記

繼篤 為

生駒 大内親内

椎川 嘉右衛門

未彬 痴

田村 右京大夫内

佐藤 長次郎

時教 毒

織田 兵部右衛門

長井 廣記

季吉 毒

若井 伊豆守内

渡邊 五郎右衛門

東 扇

米津 伊勢守内

根本 少左衛門

保雅 乃

米津印務守印

根平

以兼馬

保雅
乃

戊辰奥羽列藩建言書

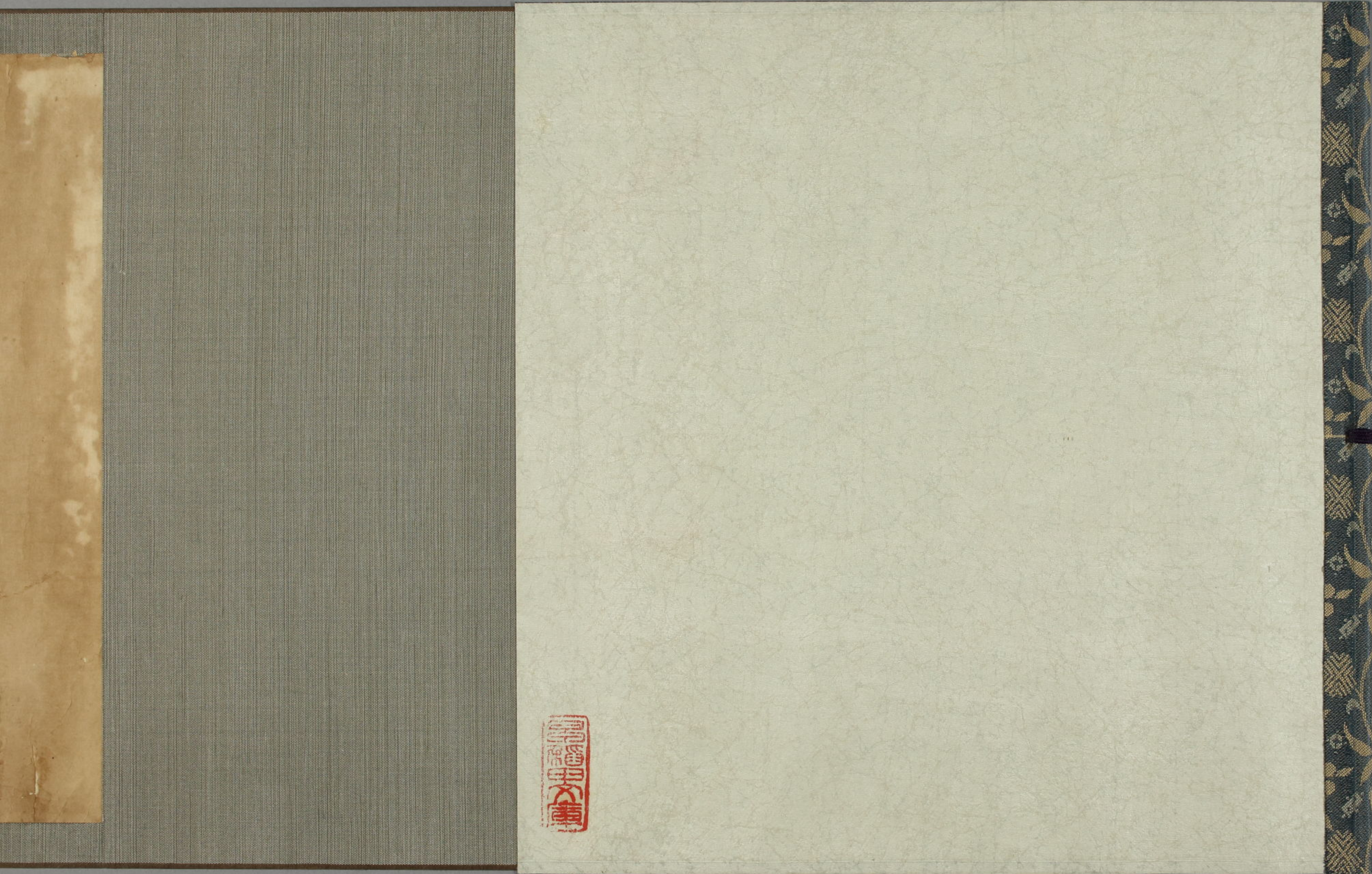


早稲田大学図書館

文書 27

D 7





戊辰奥羽列藩建言書

早稲田大学図書館
文書 27
D 7